

PARS-TR について

一般社団法人 発達障害支援のための評価研究会

PARS-TRはPARSのテキスト改訂版(Text-Revision)です。テキスト改訂とは、評定尺度の信頼性と妥当性は従来のPARSを維持しながら、質問項目の解説部分の文言などを改訂したものです。PARS-TRは各評定値の評定例などを大幅に書き加えたことで、従来のPARSよりも使いやすくなりました。しかし質問項目自体には改訂を加えていないので従来のPARSと同じ評定基準でお使いいただけるようになっており、従来のPARSとの連続性を基本的に保っています。

PARSはその発刊以来、多くの方のご支持を得て、さまざまな臨床現場で活用いただいています。PARSの活用を通じて、日常生活に困難を示している方々の困難性がASD特性に由来するものであるか否かの可能性の把握、そしてインタビュー評定を通じて評定対象者の方の支援ニーズと支援の手がかりを把握するという営みが広がっています。このような形でASD特性をもつ方々の支援が、より焦点が絞込まれた形でなされていることは、私たちPARSの作成者一同の喜びとなっております。ありがとうございます。

その一方、PARSの従来版には、以下のような課題が存在していました。

- (1) [0, 1, 2] の3段階評定の各評定についての指針(評定例)が十分ではなかった。
- (2) 評定項目を「頻度と程度」から評定することについての指針が十分ではなかった。
- (3) 項目を評定できない場合(評定不能の場合)の記録方法が明確でなかった。

PARS-TRでは、上記3つの課題について以下のような改訂を行っています。図1にPARS-TRに記載されている項目3の実際を示しますので、参照して下さい。

- (1) 3段階評定の各評定値についての指針(評定例)
各評定値についての評定例を大幅に書き加えました。図1では、評定1の評定例として1例、評定2の評定例として2例を記載しています。他の項目にも、各評定値として想定している状態像が具体的にわかるような評定例を記載しています。
- (2) 「頻度と程度」の評定観点についての指針
各項目を「頻度と程度」の両方の観点から評定するか、あるいはいずれかの観点から評定するかを明記しました。図1では、項目内容の右側に(頻度と程度を考慮して評定)という記載がありますので、項目3はこれら両方の観点から評定することになります。評定観点の指針については、すべての項目に記載しました。
- (3) 評定不能の場合の記録方法
評定不能の場合として、(a)母親から項目に関する情報が得られない場合の評定不能、(b)その他の障害や発達レベルの影響による評定不能、の2つのタイプを想定して、それぞれを別に記録できるように改訂しました。評定不能は評定値としてはPARS得点に加算されませんが、評定不能の内容を記録しておくことは支援ニーズを把握する上で重要です。よって、図2に示すように、PARS-TRの記録シート部分も評定不能をチェックできるように改訂しました。
また、以上の改訂に加えてPARS-TRでは、質問項目が意味する内容のより正確な理

解を支えるために、いくつかの項目について「項目の視点」や「評定の視点」を加筆しています。さらD(注)についてもテキスト改訂を行っています。

「項目の視点」とは、質問項目を理解する上での補足情報です。

図1に記載がありますので、参照して下さい。

「評定の視点」とは、評定を実施する上での補足情報です。

図1に記載がありますので、参照して下さい。

以上に述べたいいくつかの改訂が、PARS-TRには加えられています。ASD特性をもち、日常生活に困難さを感じている方々の支援に、より使いやすくなったPARS-TRを役立てていただけるよう願っております。

<図1>

短縮版項目

項目3. 名前を呼んでも振り向かない (頻度と程度を考慮して評定)

[項目の視点] 後ろ(子どもには見えないところ)から名前を呼んで振り向くかどうかを評定する。

聞き方(幼児期ピーク評定(幼児期の症状がもっとも顕著な時): 全対象者):

お子さん(・・・さん)は、(幼児であれば)これまでに/(小学生以上であれば)幼児期(就学前)にお子さんの注意を引こうとして後ろから名前を呼んでも振り向かないことがありましたか? 名前を呼べば振り向きませんか? 名前を呼んでも振り向かないことが、時々(多少)ありましたか? それとも、名前を呼んでも振り向かなかったですか?

評定段階(数字を○で囲む):

0. 名前を呼べば、たいてい振り向いた。
1. 名前を呼んでも振り向かないことが、時々(多少)あった。
[評定の視点] 繰り返し呼ばないと振り向かない、呼びかけてから振り向くまでに時間がかかるなどの場合は評定1
[評定例] 他のことに夢中になっていると反応がなかった、など。
2. 名前を呼んでも振り向かなかった。
[評定例] 何もしていないときに呼びかけても振り向かなかった;(子どもを呼びとめるために)「～ちゃん、こっちだよ」や「～ちゃん、待って」と呼びかけても、呼びかけに気がついたことがない、など。
8. 評定不能(幼児期の生育歴を母親(主養育者)が十分に想起できない場合)
9. 評定不能(聴覚障害が著しい場合)

聞き方(現在評定(現在/最近の症状の評定): 幼児のみ):

現在、後ろから名前を呼ばれるとどうですか? 名前を呼べば振り向きませんか? 名前を呼んでも振り向かないことが、時々(多少)ある程度ですか? それとも、名前を呼んでも振り向かないですか?

評定段階(数字を○で囲む):

0. 名前を呼べば振り向く。
1. 名前を呼んでも振り向かないことが、時々(多少)ある。
2. 名前を呼んでも振り向かない。
8. 評定不能(現在の状態を母親(主養育者)が十分に把握していない場合)
9. 評定不能(聴覚障害が著しい場合)

<図2> 次の見開きで表示します。

2013年6月 文責: 安達潤(北海道教育大学)

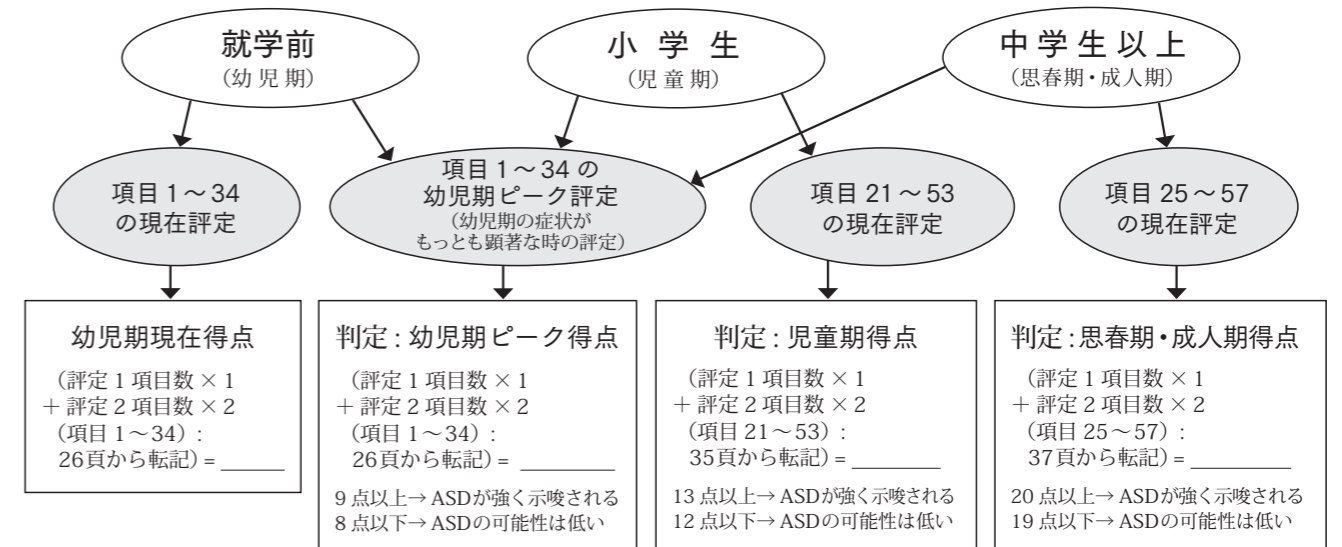
一般社団法人 発達障害支援のための評価研究会 (PARS委員会 改組・改称)
安達潤、井上雅彦、内山登紀夫、神尾陽子、杉山登志郎、辻井正次、行広隆次
顧問: 市川宏伸、栗田広

PARS-TR 基本情報	評定対象児者名 _____ 評定者 _____
	生年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 生まれ (_____ 歳 _____ ヵ月) 男・女 _____
	診断の有無： _____ 有・無 _____ (診断名 _____)
	IQ/DQ _____ (_____ 年 _____ 月 _____ 日 施行 検査法 _____)
	備考 (_____)

表1. PARS-TR項目と評定	就学前 (幼児期)		小学生 (児童期)		中学生以上 (思春期・成人期)	
	評定		評定		評定	
	幼児期ピーク	現在	幼児期ピーク	現在	幼児期ピーク	現在
1. 視線が合わない	0 1 2 8 9	1 2 8 9	○	—	○	—
2. 他の子どもに興味がない	0 1 2 8 9	9	○	—	○	—
3. 名前を呼んでも振り向かない	0 1 2 8 9	9	○	—	○	—
4. 見せたい物を持ってくることがない	0 1 2 8 9	8	○	—	○	—
5. 指さして興味のあるものを伝えない	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	○	—	○	—
6. 言葉の遅れがある	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	○	—	○	—
7. 会話が続かない	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	○	—	○	—
8. 一方通行に自分の言いたいことだけを言う	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	○	—	○	—
9. 友達とごっこ遊びをしない	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	○	—	○	—
10. オウム返しの応答が目立つ	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	○	—	○	—
11. CMなどをそのままの言葉で繰り返し言う	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	○	—	○	—
12. 感覚遊びに没頭する	0 1 2 8	0 1 2 8	○	—	○	—
13. 道路標識やマーク、数字、文字が大好きである	0 1 2 8	1 2 8	○	—	○	—
14. くるくる回るものを見るのが好きである	0 1 2 8	2 8	○	—	○	—
15. 物を横目で見たり、極度に目に近づけて見たりする	0 1 2 8	8	○	—	○	—
16. 玩具や瓶などを並べる遊びに没頭する	0 1 2 8	8	○	—	○	—
17. つま先で歩くことがある	0 1 2 8	0 1 2 8	○	—	○	—
18. 多動で、手を離すとどこに行くかわからない	0 1 2 8	0 1 2 8	○	—	○	—
19. 食べ物でないものを食べたり吞み込んだりする	0 1 2 8	0 1 2 8	○	—	○	—
20. 抱っこされるのを嫌がる	0 1 2 8	0 1 2 8	○	—	○	—
21. ビデオの特定場面を繰り返し見る	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	—
22. ページめくりや紙破りなど、物を同じやり方で繰り返しじる	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	—
23. 全身や身体の一部を、同じパターンで動かし続けることがある	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	—
24. 身体に触れられるのを嫌がる	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	—
25. 同じ質問をしつこくする	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	0 1 2 8 9	0 1 2 8	—
26. 普段通りの状況や手順が急に変わると、混乱する	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	2 8
27. 生活習慣が乱れ、身辺自立ができなくなる	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	1 2 8
28. 過去の嫌なことを思い出して、不安定になる	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	0 1 2 8
29. 偏食が激しく、食べ物のレパートリーが極端に狭い	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	0 1 2 8
30. 特定の音を嫌がる	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	8
31. 痛みや熱さなどに鈍感であったり、敏感である	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	1 2 8
32. 何でもないものをひどく怖がる	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	0 1 2 8
33. 急に泣いたり怒ったりする	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	0 1 2 8
34. 頭を壁に打ちつける、手を咬むなど、自分が傷つくことをする	0 1 2 8	0 1 2 8	○	0 1 2 8	○	1 2 8
35. 年齢相応の友達関係がない	—	—	—	0 1 2 8	—	0 1 2 8
36. 周囲に配慮せず自分中心の行動をする	—	—	—	0 1 2 8	—	2 8 9
37. 人から関わられた時の対応が場にあていない	—	—	—	0 1 2 8 9	—	2 8 9

	幼児期ピーク	現在	幼児期ピーク	現在	幼児期ピーク	現在
38. 要求がある時だけ自分から人に関わる	—	—	—	0 1 2 8	—	0 1 2 8
39. 言われたことを場面に応じて理解するのが難しい	—	—	—	0 1 2 8 9	—	2 8 9
40. 難しい言葉を使うが、その意味をよくわかっていない	—	—	—	0 1 2 8 9	—	0 1 2 8 9
41. 大勢の会話では、誰が誰に話しているのかわからない	—	—	—	0 1 2 8 9	—	1 2 8 9
42. どのように、なぜ、といった説明ができない	—	—	—	0 1 2 8 9	—	2 8 9
43. 抑揚の乏しい不自然な話し方をする	—	—	—	0 1 2 8 9	—	0 1 2 8 9
44. 人の気持ちや意図がわからない	—	—	—	0 1 2 8 9	—	0 1 2 8 9
45. 冗談や皮肉がわからず、文字通り受け取る	—	—	—	2 8 9	—	0 1 2 8 9
46. 地名や駅名など、特定のテーマに関する知識獲得に没頭する	—	—	—	1 2 8	—	0 1 2 8
47. よく知っているテレビのシーンを独りで再現する	—	—	—	0 1 2 8	—	0 1 2 8
48. 相手が嫌がることをわざと執拗に繰り返す	—	—	—	0 1 2 8	—	0 1 2 8
49. 何かにつけ自分が一番でないと気がすまない	—	—	—	1 2 8	—	0 1 2 8
50. チック症状(瞬き・首振り・汚言等)がある	—	—	—	1 2 8	—	0 1 2 8
51. 場に不適切なほど、行動が落ち着かない	—	—	—	1 2 8	—	0 1 2 8
52. 不注意さがひどく、場に応じた行動ができない	—	—	—	1 2 8	—	0 1 2 8
53. 行動が止まって次の行動に移れなくなったり、固まったりする	—	—	—	0 1 2 8	—	0 1 2 8
54. 恥ずかしさを感じていないように思える	—	—	—	—	—	0 1 2 8
55. 人にだまされやすい	—	—	—	—	—	0 1 2 8
56. 被害的あるいは猜疑的・攻撃的になりやすい	—	—	—	—	—	0 1 2 8
57. 気分の波が激しく、落ち込みと興奮を繰り返す	—	—	—	—	—	0 1 2 8
得点 = 評定1の項目数×1 + 評定2の項目数×2						

図1. 各年齢帯で評定するPARS-TR項目および得点計算法とASD(自閉スペクトラム症)特性の判定



【短縮版の評定基準】

幼児期ピーク得点	: 幼児期・児童期対象 = 5点以上 → ASDが強く示唆される
	: 思春期・成人期対象 = 7点以上 → ASDが強く示唆される
児童期現在得点	: 7点以上 → ASDが強く示唆される
思春期・成人期現在得点	: 8点以上 → ASDが強く示唆される

注1: 診断確定には専門医の診察が必要。

注2: 幼児期現在の評定値は現在状態の参考値である。(幼児期ピーク評定が困難な場合には、ASD特性の判定に使用する)

注3: 小学生以上で幼児期ピーク評定(幼児期の症状がもっとも顕著な時の評定)が困難なら現在評定を用い、幼児期ピークと現在の評定のASD判定が異なるなら、ASDとする判定を採用する。

注4: 各年齢帯の現在得点は支援に関係する困難度を反映するが、詳細は今後の検討課題である。